

臨床研究に関する情報公開について(オプトアウト)

通常、臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さんへの侵襲や介入がなく、人体から取得された試料を用いず、診療情報などの情報のみを用いて行う研究については、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るとはかぎりませんが、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに可能な限り拒否の機会を保障することが必要とされています。このような手法を「オプトアウト」といいます。

オプトアウトを行って実施している研究は以下の通りです。

公開文書

2023年1月～9月に福岡保養院にて 心理療法室による COVID-19 対応職員メンタルヘルスケアを受けられた職員の方へ

心理療法室では、COVID-19 のクラスターに対応した職員への継続的な心理支援について研究を行っています。この研究の対象者に該当すると思われる方で、研究の詳細についてお知りになりたい方、またご自身の情報をこの研究に使うてほしくないと思われた方は、2024年5月31日までに末尾に記載の問い合わせ先までご連絡ください。

1. 研究課題

COVID-19 対応職員への継続的な心理支援報告 II ～ポストコロナに求められる心理支援とは～
(倫理承認番号:福岡保養院 2024-01)

2. 研究機関名および研究責任者氏名

研究機関 医療法人 緑心会 福岡保養院

研究責任者 心理療法課心理療法室 室長 渡邊真奈美

共同研究者 心理療法課心理療法室 松本和奈

3. 研究期間

倫理委員会承認後～2024年5月31日

4. 対象となる方

- ・2023年1月～8月に、心理療法室が行った COVID-19 対応職員メンタルヘルスケアの面談を受けられた方
- ・2023年9月に、心理療法室が行った COVID-19 対応職員メンタルヘルスケアのアンケート及び心理尺度 (IES-R、JBS) に回答された方

5. 研究の目的

COVID-19 が国内で確認されてから、感染流行の度に当院でもクラスターが発生し、心理療法室が継続的に、COVID-19 対応職員の心理支援を行ってきました。当初は、COVID-19 という広域災害への支援者支援として行っていたのですが、感染流行が繰り返されるにつれ、COVID-19 対応業務も、災害対応から通常業務のひとつへと移行しつつあり、職員のストレス反応とその要因も移り変わってきています。また、クラスター発生時は、休職者も発生するため、職員個人の業務負荷が増すことが多く、疲弊しやすい状況も長期に亘っています。そのため、2023年以降は、職員の疲弊状態の把握のためバーンアウト(燃え尽き症候群)の心理尺度も使い、心理支援を行ってきました。

そこで、本研究では、2023年1月～9月に行った職員への心理支援について、心理尺度を中心に解析し、長期に亘り COVID-19 対応業務と向き合う職員のストレス反応およびバーンアウト(燃え尽き症候群)状態を把握すること

を目的とします。さらに、面談で得られた心理尺度の結果に関する回答を解析し、考察を加えることで、COVID-19 対応業務に長期に亘って向き合う職員のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因と、今後求められる職員個人への心理支援の指針を得ることも目的としています。さらに、これらの解析および考察は、職員個人だけでなく、病院組織の現状把握にも繋がると考えており、職員個人だけでなく病院組織に向けた心理支援についても足掛かりが得られると考えています。

6. 研究の意義

COVID-19 の感染拡大による医療従事者のメンタルヘルスへの影響としては、自身が感染するのではないかという感染不安だけでなく、誰かに感染させてしまい、周りに迷惑をかけてしまうという罪責感情が生じやすいと言われていいます。そして、その罪責感情に、休職者が発生するために生じる人員不足による過重な労働や個人防護具の使用による身体的負荷が重なると、抑うつ、PTSD、燃え尽き、離職といった深刻な精神状態になりやすく、組織の機能低下を招く可能性もあると言われていいます。さらに、精神科病院は、患者さんの疾患や病院の構造の特徴のために、クラスターが発生しやすく、職員の精神的、身体的負担が大きい状態が続いていると思われます。そのため、本研究を行うことで、長期に亘って COVID-19 対応業務と向き合っている当院の職員および病院組織の現状を把握し、職員個人への心理支援の指針を得るだけでなく、病院組織として取り組める心理支援についても足掛かりが得られると考えています。そして同時に、本研究が、COVID-19 のパンデミックからポストコロナへと移行する時期の精神科病院の職員のメンタルヘルスの現状とその要因の把握に役立ち、職員個人と病院組織という両面からアプローチする心理支援の足掛かりにもなると考えています。

7. 研究の方法

2023 年 1 月～8 月までの COVID-19 対応職員メンタルヘルスケアの個別面談で実施した心理尺度結果、心理尺度の結果に関する回答、2023 年 9 月に実施した心理尺度の結果、アンケートの回答のデータを匿名化した状態で収集し、解析します。

8. 利用する情報

この研究に使用する情報として、職種、年齢、性別、IES-R(改訂出来事インパクト尺度日本語版)、JBS(日本版バーンアウト尺度)、IES-R およびJBSの結果に対する回答、アンケートの回答を情報として用います。

この研究に関わって取得される情報等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱います。取得した情報等は、解析する前に氏名などの個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、匿名化します。心理尺度結果への回答、アンケートの回答については、匿名化し、回答内容をカテゴリー化し、解析します。匿名化し、集計したデータは、研究者のみが使用できるパスワードロックをかけて心理療法室のハードディスクに保存します。

9. お問い合わせ

この研究のためにご自分の情報・データ等を使用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先に 2024 年 5 月 31 日までにご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究成果は、研究対象者の氏名等の個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌等での報告を行います。

本研究に関するご質問などありましたら下記の連絡先までお問合せください。

2024 年 2 月

【連絡・お問い合わせ先】

研究責任者: 渡邊真奈美

〒815-0004 福岡市南区高木 1 丁目 17-5

医療法人 緑心会 福岡保養院 心理療法課心理療法室

電話: 092-431-3031 (代表)